

# トイレに張り付く案内役

小樽を訪れる外国人観光客にトイレの使い方を理解してもらおうと、小樽商大生2人が、使用方法を4カ国語で表記したイラスト付きシール約150枚を作製した。翻訳を担当した同大留学生の肖小玲さん(23)は「市内の飲食店や土産店で使ってもらい、外国人観光客に小樽の観光を快適に楽しんでもらいたい」と話している。(三坂郁夫)

観光@しりべし

## 外国人向け 4カ国語シール製作

トイレの使い方を4カ国語で紹介するシールを作製した小樽商大の肖小玲さん(左)と所侑亮さん



### 樽商大生 市内で無料配布

「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト」(マジプロ)の二環。学生が8月に小樽堺町通り商店街周辺で観光客100組と飲食店を対象に実施した調査で、外国人観光客がトイレの使い方に慣れていないことが分かり企画していた。肖さんによると、中国ではトイレトペーパーをゴミ箱に捨てる習慣があり、初めて日本に来た時は肖さん自身も使い方が分からなかったという。シールは縦7・5センチ、横21センチ

で「トイレットペーパーは流してください」「レバーを引くと水が流れます」など13種類あり、それぞれ日本語、英語、中国語(繁体字、簡体字)、韓国語で表記。日本らしさを伝えるため和服を着た男女がトイレを使うイラストも加えた。2年生の所侑亮さん(20)は「市内に公共トイレが少ないので、将来的には外国人観光客にトイレを貸し出すお店が増えればいい」と話している。

シールは市内の飲食店や商業施設などに無料配布する。問い合わせは電子メール [tokoro2016@yahoo.co.jp](mailto:tokoro2016@yahoo.co.jp)。

日本のトイレ使用法  
外国人へ案内シール

小樽商科大生

外国人観光客に日本のトイレの使い方を一目でわかってもらえるように、小樽商科大の学生2人が、場面ごとのイラストに英語と中国語(簡体字・繁体字)、韓国語の説明を添えた案内用シールを作った。

シールは縦約7センチ、横約21センチで、「トイレットペーパーは流してください」「レバーを引くと水が流れます」など計12種類用意。全種類を120枚ずつ作った。4月に3年生になる所脩亮さん(20)と、中国人留学生の肖小玲さん(23)が今年度、実践型授業の一環として作成に取り組んだ。

トイレの習慣は国ごとに

違う。例えば中国では使用済みの紙をゴミ箱に捨てるのが通例という。2人は小樽市で実施したアンケートで「外国人のトイレのマナーが悪い」という商店主ら

の悩みを知り、シール作りの思いをついた。肖さんは習慣の違いは説明しないとわかりません。このシールを使って、外国人にトイレを貸してくれるお店が増えれば」と話している。



「トイレットペーパーは流して」「手をかざすと水が流れます」など、注意点をわかりやすく伝える12種類のシール

## 市と地域協力！ 郵便局・大学・コンビニとも (2017/03/30)

ツイート

小樽市と市内郵便局や大学、コンビニなどが協力体制を構築する「地域における協力に関する協定」の締結が続いている。

小樽郵便局とは3月24日(金)に、北海道職業能力開発大学校(銭函)とは3月30日(木)9:30から、株式会社セブンイレブン・ジャパンは11:30に、それぞれ市役所(花園2)で締結式が行われた。

郵便局との協定は、市内33の郵便局が、日常の業務活動中に、高齢者・障害者・子どもなどの何らかの異変、道路の異常や不法廃棄が疑われる廃棄物などを発見した場合、小樽市へ情報提供を行い連携を図る。

森井市長は、「安心安全なまちづくりをする上で、市としても心強く思う」と述べ、鎌田小樽郵便局長は、「市民の安心のために努力します」と、横木錦町郵便局長は、「連携の理念である地域を守ることに取り組んで参りたい」と誓った。



写真提供:小樽市

これまで様々な連携を図ってきた同校と、さらなる連携と協力関係を深化させるため、知的資源及び情報などについて、相互交流支援や効果的な活用を進め、地域社会の発展のために人材育成及び科学技術の振興に寄与する目的で、連携協定を締結。前田康二校長が出席し、協定書にサインし握手を交わした。

ものづくりの実践技術者を育てる北海道唯一の国立教育機関の同校とは、小樽市総合計画審議会委員や小樽市歴史文化基本構想策定委員会委員など、本市のまちづくりに関して様々な協力や、市と共催の市民講座や産業振興、歴史的建造物の保全などの分野にも連携を図ってきた。



前田校長は、小樽市と連携することにより新しい産業の卵を実際に孵すことができるようになり、北海道における新しい産業の発祥の地と小樽市がなれるよう、今回の連携協定が有効に発展するよう努力する」と決意を述べた。

これまで、2008(平成20)年3月に小樽商科大学と、2016(平成28)年5月には北海道科学大学と連携協定を締結している。

◎小樽商大との連携協定 ◎北海道科学大学との連携協定

同日、市と同社は、宅配サービスなどの日常業務の中で高齢者等の異変を察知した場合に、関係機関と連携し、速やかな対応に繋げ、事故や孤独死を防ぎ、高齢者が安心して暮らし続けられるよう地域福祉の向上を図る「小樽市地域見守り活動に関する協定」と、災害時における被災住民等の救援のため、食料品や日用品などの物資の供給や店舗の営業継続について、災害応急復旧対応の体制強化を図る「災害時の物資供給及び店舗営業の継続又は早期再開に関する協定」を締結した。

市内には、セブンイレブンの店舗は、現在20店舗ある。